

令和元年度第4回 仙台市若林区区民協働まちづくり事業評価委員会
議事録

1 日時

令和2年3月13日(金) 14時00分～16時40分

2 会場

若林区中央市民センター別棟 第3会議室

3 出席(名簿は次第裏面のとおり)

(1) 評価委員

(2) 事業担当課

家庭健康課、区民生活課、戸籍住民課(保護課)、若林区中央市民センター、
まちづくり推進課

(3) 事務局

まちづくり推進課

4 傍聴者 なし コロナウイルス感染予防のため非公開とした

5 議題

令和元年度企画事業の事後評価について

評価は事業ごとの質疑応答及び意見交換をもって行う

6 配付資料

(1) 令和元年度企画事業実績概要報告書 評価委員へは事前に配布済み

(2) パワーポイント資料

(3) その他関連資料、成果物

7 経過概要

(1) 開会

(2) 委員紹介

(3) 令和元年度企画事業実績概要報告

各課で事業ごとの写真等を投影しながら、実績概要報告書に基づきポイントを報告。その後、質疑応答・意見交換 別紙参照

(4) 閉会

令和元年度企画事業に関する質疑応答及び意見交換 記録

委 = 評価委員 担 = 事業担当課

1 子育て支援推進ネットワーク事業

担当：家庭健康課

委 民生委員は児童委員も兼ねており、子育て世代の家庭訪問を行っている。その際にわっぴーを使って子育て情報をお知らせしたりしており、大変いいツールであると思っていた。それに代わることを予定されているようなので期待している。

担 わっぴーを活用しながら家庭訪問をしていただき感謝したい。今後も違う形で何かお配りできるものを作成したいと考えている。

委 子育ての情報収集がインターネット中心になっているということで、実際の利用実態に合わせて変えていくことも大事だと思うが、ネットに載っていない・載りにくい情報についてはどのように伝えていくのか伺いたい。また、わっぴーについては、例えば「仙台市子育て応援ポータルサイト」で「子育てお役立ち MAP」で若林区をクリックした時に紹介される先になっている、などの現在の状況がある。子育て情報を検索した方や情報を知りたい方がちゃんとたどり着ける状態を維持していくことをお願いしたい。

担 ネットに載っていない情報ということで、児童館や子育て支援室などが全て記載されている子育てサポートブック「たのしねっと」を仙台市で作成しており、母子手帳交付時や転入してきた方にはお渡ししており、そちらを見てもらえると思う。どうしてもそこに載りきれない育児サークル情報や育児サロンなど若林区内の情報については家庭健康課にて一覧を作成し、たのしねっとと併せてお渡しできればと考えている。わっぴーは仙台市のHPからダウンロードできるほか、のびすくのHPに子育てマップというページがあり、マップをクリックしていくと、児童館や幼稚園のHPにつながり最新の情報をみることができるのでそちらも紹介できればと思っている。

2 若林区健康づくり区民会議

担当：家庭健康課

委 各会で体験型の企画を取り入れているのはよい取り組みだと思う。こういうアイデアは若林区健康づくり区民会議に参加している区民の方の意見を取り入れながら企画しているのか。

担 事務局側で提案をして、それに対して意見をいただきながら、合意形成のもとで進めている事業になる。

委 生活習慣病は子どもの頃からの積み重ねであることは、どの地区をみても同じことがいえると思うので、ぜひ他の地区でも生活習慣病予防講話の実施を考えて頂きたい。また小学生にも働きかけていただけたらと思う。

3 ライフイベント（婚姻届・出生届）記念事業

担当：戸籍住民課

委 出生届もイラスト入りを作成したのか。

担 出生届は通常のものである。オリジナルメモリアルカードのみ作成した。

委 イラスト入り婚姻届けはこれからも継続していくのか。

担 継続の話が出てくれば別であるが、今のところは無くなり次第終了である。

委 オリジナルメモリアルカードはいつからお渡しするのか。

担 4月1日からを考えているが、その前に出生届を提出した方も、4月1日以降窓口で申出でいただければお渡しする。

委 事業を行ってみての問題点・課題でメンバーの所属課が異なるためにメンバー全員が集まる機会が少なく大変だったとあるが、一つの課で進めるより各課横断的に関わって進めていくことで素晴らしい成果をあげることができると思うので、大変だとは思いますがぜひ継続して活動していただきたい。

委 3つのチームに分かれて活動されているとのことだが、実績概要報告書の実施状況の打合せは、オリジナルメモリアルカードの作成の打合せか。

担 オリジナルメモリアルカードの作成に取り組んだチーム Birth の打合せである。

4 若林区安全安心街づくり活動推進モデル地区事業

担当：区民生活課

委 防犯パトロールはどのようなメンバー、時間帯、頻度で行っているのか。

担 今年度は月1回、安心安全街づくりの会の会員である単位町内会長、南小泉中央交番、区民生活課、南小泉防犯協会、薬師堂防犯協会にて、時間帯は夕方 15:00～16:00 の1時間で周辺の道路を一周するパトロールを実施した。時間帯については去年の12月に実施した実地調査では、小中学生が下校する時間帯 15:30 前後と中高生が下校する 18:00 の

時間帯と2回に分けて実施しており、時間帯とパトロールの頻度については今後、会員と協議していくことになる。各単位町内会の中でも独自にパトロールは行っており、防犯に対する不安や関心が高いということで、各町内会における動向などについては、モデル地区指定の段階から事前に調査しておくべきだったと反省している。

委 地域住民にも参加していただき、協力いただくことで防災意識を高める活動に導いていくこともできるかと思う。

委 今後の取り組みのところで防犯カメラの設置の意見が出ているが、防犯カメラについては市民の中でも意見が分かれるところだと思う。ただ、「安全安心」という流れの中では反対意見を述べにくい方もいるので、市民同士が本音を言いあえる環境をつくることに配慮しながら進めていくことが大事だと思う。事務局としては本音を言い合える環境がつかれていると思うか。

担 薬師高砂堀通りで言えば、近隣の単位町内会会長同士で気心が知れた方々を中心としてそこに事務局や警察の関係者ということで、色々意見を言いやすい、モノ申しやすい環境になっていると思う。また、防犯カメラについては、本市の制度上、市が直営で付ける制度にはなっておらず、今回の防犯カメラの設置についての意見も当初事務局では想定していなかった。地域の方から防犯カメラをつけてほしいという意見が根強いのは確かだが、それにはまず、法整備や、手続き、資金のことなどの問題をどのようにクリアしていくかを会員の皆さまと協議していく必要がある。

委 実績概要報告書の11ページの問題点、課題等については、ソフト面での展開を主としているとなっているが、HP上のパトロールの報告を拝見した際に、街灯が少なく暗い箇所があったなどの報告があったが、今後ハード面での展開はどのように考えているか。

担 ハード面に関しては区民生活課として、建設部へのアプローチが非常に難しいところがある。建設部は建設部で何らかの意図をもって設計して道路を整備しているので、そこに同じ役所内でハードについての協議をかけるというのが難しい。ハード面の要望については、別途地域の皆さまから、地域懇談会などの別の機会を使って頂いて、要望を上げていただいたほうが早いと思う。ハードの部分に関して事務局としてやっていくというのは正直難しいところである。

委 大変難しいのは承知の上でだが、せっかくいい組織ができていますので、ぜひパブコメなどでもいいので声を届けるパイプ役を担っていただきたい。

委 ハードの面については、各連合町内会でも区役所のほうに要望は出すことができるので、この事業にそこまで期待はしておらず、そちらよりも地域の防犯に対する意識向上を期待している。忙しい中で皆さん集まるのは大変だと思うが、地域住民が安心安

全に暮らしていくためにはパトロールは大切である。日常生活のなかで子どもたちの様子を見て、犯罪をしないように、巻き込まれないように目を光らせるその意識向上が一番大切だと思っている。来年の事業の中ではその担い手や意識向上を頑張っていたきたい。

5 若林区の映像保存・活用事業

担当：若林区中央市民センター

委 今年度で一つの区切りとするとのことだが、継続して記録して後世に伝えていくことは大事だと思うので、ぜひ途切れないように新しいメンバーになっても継続していただけたらと思う。

担 今回データを整理していて貴重な写真などもあり、情報の収集・発信は必要であると認識しているので、次年度以降も事業は進めていきたいと考えている

委 博物館や資料館でも見られるが、一度閉まってしまうと取り出されないこともあって、情報を収集して分類して終わりとなってしまうことが結構多いので、ぜひその辺は柔軟な市民センターの特色を生かした多様な活動を目指していただきたい。一つのアイデアとして、若林区中央市民センターは中高生の利用も盛んな市民センターだと思うので、収集した写真をインスタグラムなどのSNSで発信することで、写真を撮っている世代は高齢の方が多いかと思うが、それを若者の視点で拡散していく、魅力を発信していく新しい活用方法を今後考えていただきたい。

担 若者を対象とした事業も行っているなので、参加している若者から情報収集を行いながら、新しい情報発信の方法を取り入れることも考えていきたい。

6 若林区地域学校連携推進会議

担当：若林区中央市民センター

委 この会議に参加させていただいたが、非常に有意義なもので、積み重ねによって地域の中でも顔が見える関係が出来てきたと思う。それが今度実際の事業、あるいは子供たちの学習にも繋がっていく良いシステムだと思うので今後も続けていただきたい。地域のメンバーを考えたときに児童館が抜けがちだが、それについてはどのように考えているか。

担 人数が増えることでエリア別の情報交換会で話が深まらなかった反省があり、今回は児童館をお呼びしていなかったが、児童館の状況も色々伺っているので、全館は難しいと思うが、市民センター併設館以外のところから選んだうえで参加していただくことは考えたい。

委 市民センターに併設されている児童館はいいが、単独の児童館は中々情報が入らない状況があるみたいなのでぜひお声がけしていただければと思う。

委 参加者を絞らざるを得ないということで、会議に出られなかった方への情報共有の取り組みはされているか。

担 具体的には進んでいない状況であるが、記録としては非常に充実したものが出来ているので、地区の市民センターが年に1回から2回開催している地域懇談会の場などでお伝えできないか考えていきたい。

7 ポッチャをとおした区民地域交流促進事業

担当：若林区中央市民センター

委 長らくポッチャの促進を続けてきた中で運営スタッフが思うように集まっていないのは、運営側にまわりたいという意識が地域として低いのか、若林区中央市民センターのほうでの呼びかけが足りずにそのような状況となっているのか率直な意見を聞きたい。

担 運営スタッフ養成講座の募集を始めて2年になるが、ポッチャをやる側でいたい方が多く、地域での展開に向けた運営スタッフとして活動していくという意識付けが少し足りなかったと思う。次年度に向けては、運営スタッフとして自立するという意識を持った3名の方がいらっしゃるので、新たな参加者の募集も行いながら、前半にスキルアップを図る講座で支援しつつ、後半については自立化して活動できるサークル化への準備期間とする予定である。状況によっては、再来年度以降も運営スタッフを養成するために新しい形で募集を行うかは今後考えていくことになる。地域の町内会や老人クラブからは出前ポッチャの要望も出ており、区内での認知も高まっているので、運営スタッフの活用と併せてポッチャをとおして地域交流の促進に努めていきたい。

8 第30回 若林区民ふるさとまつり

実施：若林区まちづくり協議会（若林区民ふるさとまつり実行委員会）

担当：まちづくり推進課

委 今年度の若林区民ふるさとまつりを振り返ると飲食の出店が少なく感じた。お昼時になると出店の前が長蛇の列になっていたが、今年は飲食の出店が少なかったのか。また、まつりの参加人数やボランティアの人数を教えてください。他のイベントにも言えるが参加人数などが実績概要報告書に記載がないので記載して頂きたい。

担 参加人数については実数をカウントしているわけではないが、公表値で40,000人である。参加ボランティアについては、全てのスタッフの人数を把握できているわけではないが、実行委員会で把握しているスタッフは100名以上で、それ以外にもブースご

とにそれぞれ多くの方にご協力いただいている。飲食の出店が少なかったのはおっしゃる通りで、少しでも飲食の出店を増やしたい思いから、実行委員会で飲食の販売ブースを設けていた。また飲食の出店を増やす取り組みとしてキッチンカーの参加も来年度に向けて検討している。

委 伝統工芸館コーナーにはどんな伝統工芸があったのかと、シャトルバスの運行というのは、どのような経緯で連携することになったのか。

担 伝統工芸館でどのようなものを作ったのかというと、門間箆笥店ご協力のもと、本棚の組み立て、工房けやきご協力のもと木下駒絵付け体験、八重樫仙台箆笥金具工房ご協力のもと彫金体験を行った。非常に大人気で午前中で全て埋まってしまった。シャトルバスの導入については、まつり来場者の駐車場がないことや、薬師堂駅からも徒歩10分かかり、アクセスが悪いことからイオンスタイル卸町と協賛の形で1時間に1往復運行させることとなった。

9 わかばやし区春らんまん

担当：まちづくり推進課

委 各商店街生き残りが非常に厳しい状況ということでご報告いただいているが、春らんまんを開催することで、各商店街にどういう効果があったのか。

担 商店街そのものを継続していくのが難しいと聞いており、春らんまんを開催することで、商店街の活性化に繋がっているようである。例えば愛宕商店会でいうと、どんと焼きを名物として売り出したり、少しでも自分の商店街の魅力をアピールできる場となっている。それが結果的に各商店街にどう還元されているかまでは聞いていない。

委 荒町エリア発信隊のまちづくり活動助成事業の報告の中で、商店街の中で若くて新しいお店ほど組合に入ってもらえない課題があるとおっしゃっていたが、商店街の継続を考えると厳しい状況だと感じており、商店街の組合に入るメリットとして春らんまんに参加できるなどの相乗効果を区役所と連合商店会で共通の認識として持つことで、組合加入者の増加、商店街の世代交代に繋がっていくのかなと思ったので、ぜひイベントそのものを盛り上げるだけでなく、今後の各地域の商店街の活性化の視点も含めて取り組んでいただきたい。

担 連合商店会があるのは5区の中で若林区だけで、連合商店会としてやっているのがこの春らんまんだけである。このイベントが継続できなくなることで、連合商店会の存在価値や意義の部分が薄れてきてしまうことを実行委員会の中心メンバーの方々は心配している。区役所としては、継続して開催できるように協力していきたいと思っている。

委 連合商店会の大きな事業の一つということで、中心スタッフは連合商店会の存続には春らんまんは欠かせない思いがあるようだが、傘下のお店の方々の意思はどうか。イベントやることで人は来るが、その後の店の売り上げにつながらないなどの話を商店街の方から聞いていたりもするので、連合商店会の幹部の方々の考えと組合員の間で意識のズレなどはないのか。また、本来商店街というのは魅力のある個店の集まりであるべきで、商店街を存続させたいのであれば、一つ一つのお店が魅力をもたないと商店街として成り立たない。そうなると一つ一つのお店の魅力をどう磨くか、ある意味で経営支援が必要となってくるが、それをまちづくり推進課の事業としてやるべきなのか、そこの意見を聞きたい。

担 実行委員会の幹部と組合員の意識の差については、まちづくり推進課では把握できていないが、我々が普段接している実行委員会のみなさんの意識は高く、このイベントを続けていく意思は強い。ご意見の通りでイベントをどうまちづくりに繋げていくかについては大変な部分もあると思うが、実行委員会で継続していく意思がある以上はまちづくり推進課としては支えていきたいと考えている。商店街の個店の魅力向上については、区役所としての範疇ではないと考えている。経済局に地域産業の担当課もあるのでそちらで取り組むべき事業だと考えている。区役所としての役割は地域の魅力向上など区の活性化だと思うので、商店街と一緒にやって取り組んでまいりたい。連合商店会からは、区のまちづくりのために何かしたいとの声も聞いており、その支援についてはまちづくり推進課にて行っていきたい。

10 第30回広瀬川灯ろう流し“光と水とコンサートの夕べ”

実施：若林区まちづくり協議会

担当：まちづくり推進課

委 灯ろう流しが環境汚染につながっているのではないかと指摘もあり、流した灯ろうを下流で回収したり、水に溶ける素材で灯ろうを作成したりなど、そのあたりの環境と灯ろう流しについて区としてどのように考えているのか。

担 広瀬川灯ろう流しについては、下流まで流れずに途中でバリケードを設置して、溜まったものを回収している。毎年、大勢の方が集まる地域に定着したイベントではあるので支援していきたいと考えている。

11 若林区魅力発信事業（若林わくドキまち歩き）

実施：若林区まちづくり協議会

担当：まちづくり推進課

委 参加費はいくらなのか。

担 一人 500 円頂いている。各回一律で 500 円としているので、大型バスに乗っても 500 円である。参加者へは若林区内のお菓子などのお土産も付けている。

委 この事業を積み重ねていく中で、市民スタッフのノウハウが蓄積されていることを考えると、区役所の手を離れて立ち立できるようなプログラムに仕上がっているのではないだろうか。立ち立を考えたときに、参加費 500 円は安すぎると感じた。貸切バスやガイド付きお土産付きと内容が大変充実しているので、開催側との負担のバランスが気になるところである。いい意味で立ち立を考えると、行政の手を離れたときに、今いる市民スタッフでこの企画を成り立たせるにはどのような工夫が必要かといった視点で事業を組み立てていくことも必要だと思う。企画自体が徐々に文句のないレベルに仕上がっているからこそ事業性についても追及してほしい印象を受けた。

担 若林わくドキまち歩きは、区の事業というよりも、若林区まちづくり協議会の事業で、その事務局をまちづくり推進課が担っている。この事業は元々、地下鉄東西線開通に向けて、若林区まちづくり協議会の取り組みとして行っていたまち歩きを、若林わくドキまち歩きとして昨年度から始めた事業であるので、実質は 2 年目となる。それを独立させる必要があるかどうかもあるが、企画する側としては幅広く若林区の魅力を発信していきたいという想いで取り組んでおり、参加費が 500 円に対してもこだわりをもっているスタッフもいるので、そのようなところも兼ね合わせながら将来どのような形で事業を進めていくかを考えていければいいと思う。

委 参加者の方の年齢層や地域を教えてください。

担 通常のまち歩きは定員 20 名、大型バスを使用する場合は定員 30 名である。年齢層については市政だよりで募集しているので、市政だよりをご覧になられている年齢層の方が多し。地域については、若林区よりも他区からの応募が多し。

委 若林区の魅力を伝えるということで、ぜひ若い世代にも発信していく取り組みを検討していきたい。

委 抽選で外れた応募者に対しても参加した人が感じた魅力を伝えていくことが大事だと思う。そうした二次的な発信は、参加者の方から、市民スタッフの方から、事務局からなど、いろいろの方法があると思うが、どの程度なされているのか。

担 若林区の HP にまち歩きの様子を掲載しているが、HP よりも SNS などでも発信していけば若い世代の方にも見て頂けるかとは思っているし、参加された皆さんにぜひ SNS などでも発信してもらふことで、より魅力的なコンテンツになっていくものと思う。SNS を行政として管理するのは難しいがそういったことも含めて若い世代の方への発信を検討していきたい。

委 高い倍率の中で参加されている方々なので、ぜひ参加者自身からも発信していただけるよう呼び掛けていただきたい。

12 地域メディアの活用による創造プロジェクト

(「若林ラジオはいらいん若林」製作・放送)

実施：若林区まちづくり協議会

担当：まちづくり推進課

委 インターネットでも聞けることになっており、いかにそこにたどり着くかが大事だと思うが、インターネットで検索すると若林区のHPに出たページが最新のものではなかったのだが、放送されているところにたどり着くルートを確認することが必要かと思うが現状はどうなのか。

担 若林区のHPは更新されていない。ラジオ3のHPには掲載されているので、そこに誘導できるように取り組みを進めて聞きたい。

委 来週の放送内容などを事前に知りたいときはどのように調べればよいのか。

担 現状では事務局にお問い合わせいただくしかない。

委 コンテンツはすごくいいものなので、若林区民以外の方にも広く知ってもらいたい。テレビ番組やラジオ番組だとツイッターなどのSNSで放送内容やバックナンバーの告知があるのが当たり前だと思うので、そういった取り組みをしながら新規リスナーを開拓していくことが大切だと思う。行政ではなかなかSNSの活用が難しいとのお話があったが、ライトなメディア、区役所のHPではない別の方法で情報発信を行うことをラジオのコンテンツだからこそ考えていただきたい。

担 おっしゃる通りでラジオの告知は必要だとは思っているが、なかなか難しいのはご理解いただきたい。しかしスタッフの方も一生懸命に企画を考えているので、内容としては素晴らしいものに仕上がっていると思うので、より多くの方に聞いていただけるように取り組んでまいりたい。

13 第26回「若林区合唱のつどい2019」

実施：若林区まちづくり協議会・合唱連盟わかばやし

担当：まちづくり推進課

委 学校の参加を考えると7月の前半の時期の開催は適切な時期なのか教えていただきたい。

担 開催時期については7月の第一土曜日と決まっている。学校の試験と被ってしまう可

能性が高い時期ではあるので、学校側からすると参加が難しい時期になってしまうかもしれないが、7月の第一土曜日で定着している認識を持っているので、その中で協力いただける学校に連絡していきたいと考えている。

委 開催日が決まっていて動かせないのであれば、事前に年度当初4月から呼びかけていくことで増えていくのではないかと。

委 土曜日のイベントに参加すると次の週は振休になるなど、学校側で子供たちを土日のイベントに参加させることが難しくなっているため、子どもたちをどう巻き込んでいくのかについては、合唱のつどいの会議に学校側も参加していただき検討することも考えていってもらいたい。

担 ご意見の通りで、合唱のつどいに限らず、若林区民ふるさとまつりでも土日に学校のご協力をいただくことが難しくなっている。限られた中での協力にならざるを得ない部分もあるかとは思いますが上手く調整していきたい。

14 地域資源活用事業（六・七郷堀サポーターズ）

担当：まちづくり推進課

委 六・七郷堀サポーターズはSNSを利用した広報がすごく熱心だと感じており、堀にまつわる情報もたくさん出ていて読み物としても面白いページである。なぜ六・七郷堀サポーターズはSNSでの発信が出来ていて、他の事業では難しいのか。

担 Facebookで情報発信しているが、その管理は市民スタッフの方が個人で行っているものである。六・七郷堀サポーターズはその方に熱心に発信していただいておりますが、SNSでの発信ができていますが、それを行政として行うことは管理の問題もあり難しいので、そこに他の事業と六・七郷堀サポーターズの情報発信の仕方に大きな違いがある。

委 他の事業に関しても、市民スタッフの方がSNSでの情報発信に自発的に取り組める方がいれば発信もできるということか。

担 はい。他の事業でも発信できるノウハウや熱意がある方がいれば可能かと思うが、今のところはそういう方がいないのが現状である。

委 昨年、区の事業であるために出来ないことを質問した際は、市の方針にそぐわないものは難しいと回答いただき、河川・水路を管理している部門に対して色々と提案することは難しいと受け止めていた。しかし今年度は河川課、農林土木課と協力体制が確立されたと報告を受け、とてもいいことだと思った。管理している部署との調整は必要になるかと思うが、ぜひ活用などの展開に繋げていけるように、まちづくり推進課として区民が楽しめるまちづくりを提案できるような関係になっていくとよいと思

うがどのようにお考えか。

- 担 この事業に関しては、まちづくり推進課だけでは出来ない事業なので、管理している部署の協力を得ながら進めているものである。農林土木課にも定例会に参加して頂いており、出来る範囲でまちづくり推進課として進めていきたいと思っている。新たな提案については、正直、この事業の方向性や今後の展開についてまとまっていないところがあるので今後どのような形でこの事業を進めていくのか、新たな展開にもっていくのかは考えていきたい。
- 委 区内の小中学校に堀DAYマップを送付したところ授業で活用したいとの申し出があったということで、可能であればどのように活用したのかも含めて把握しておくことで、他の学校との協力や、新たな活用方法の発見に繋がり、ますますこの活動に広がりができると思うので、ぜひ来年度は学校での活用事例についても報告いただければと思う。
- 担 ご意見の通りで、我々が想定していない活用方法もあるかもしれないので、報告できるようにしたい。